15. The role of women in multigenerational families — Ursula Lehr and Joachim Wilbers (FRG)

Session Ⅵ : Other Household Structures
Chair : Elza Berquo (Brazil)

16. Household composition as a family resource — Lea Shamgar-Handelman (Israel)
17. Characteristics of the aged in institutions — Alice Day (USA)

Overview
Carolotte Hohn (FRG)

Spontanious papers

1. Preliminaries to the study of the family in Western society — H. V. Muhsam (Israel)
2. Correlates of postnuptial coresidence in Japan — Hiroshi Kojima (Japan)

(廣嶋清志記)

家族構造と人口高齢化に関する国際シンポジウム

標記のシンポジウム（英語名で International Symposium on Family Structure and Aging）が1987年10月21日から25日まで中国北京市北京大学で開催された．この国際シンポジウムは北京大学人口研究所と英国ケンブリッジ大学 Cambridge Group for the History of Population and Social Structure が共催したもので，北京大学人口研究所は所長の張純元教授，ケンブリッジ・グループは Peter Laslett 教授が代表者であり，プログラム作成の責任者でもあった．このシンポジウムには72名の参加者があったがそのうち28名が中国以外からの出席者であった．著名な出席者として，ミネソタ大学の James Vaupel 教授，フランスの H. LeBras 博士，カナダ統計局次長の Edward Pryor 博士，ケンブリッジ・グループの James E. Smith 博士（米国人）が挙げられよう．中国人口学者若手ナンバーワンの北京大学 曽毅博士が実際の組織者であった．日本からは人口問題研究所の河野稠果所長が国際人口学理事として出席し，国際人口学会を代表して開会式の祝辞を述べた．なお人口問題研究所からは若林敬子地域構造研究室長も出席した．

シンポジウムは10月21日夕方は前夜祭で，実質的には22日から始まった．開会式に始まり，中国の家族サイズと構造のトレンド，家族ライフコースと展望，出生力と家族構造，集合的家族，西欧社会における家族構造とライフコース，人口高齢化の過程，高齢者を支える社会保障制度，人口高齢化のインプリケーションという各議題を討議し，24日夕方実質的シンポジウムは終った．25日は北京市内関連機関の見学が行われた．

(河野稠果記)

JICA「メキシコ人口活動促進プロジェクト」への協力

国際協力事業団（JICA）は，1984年7月にメキシコ政府と締結した「メキシコ人口活動促進プロジェクト」の年度活動状況を評価し次年度の活動計画を策定するために，年1回の巡回調査団をメキシコに派遣している．本年度は，昭和62年10月26日〜11月5日の11日間，大友篤宇都宮大学教授を団長とする5名から成る調査団が派遣され，本研究所からは阿藤誠（人口政策研究部長）が参加した．